



大利中だより

4号

文責: 校長 新莊悌男

生徒にとっての授業の魅力

写真は、藤井浩彦先生の数学の計算処理の学習です。リズムよく、テンポよく進んでいました。また、計算のパターンを覚えやすくする工夫が見られました。生徒は、「能率的に処理することができるようになった」や「簡単に表現できるようになった」などの感想を述べていました。

正に、数学の授業の魅力は、数学のよさを実感できるようになることのようにです。そして、そのことは、数学の学習に意欲的に取り組むことができるようになり、ひいては、学力を蓄えることにつながっていきます。



「数学の授業」

「英語の授業」

もう一つの写真は、乗富和子先生の英語の授業です。写真には二人の先生が写っていますが、一人はALTのリチャード先生(ネイティブの先生)です。つまり、英語のみの授業が展開されています。すでに、小学校でも英語の授業はなされていますが、今後は、教科として実施される予定です。それに伴い、中学校もオールイングリッシュでの高度な授業が求められるようになってきました。

「総合的な学習の時間」のテーマ

「総合的な学習の時間」とは、各教科の学習の成果を土台として、「問題を解決する力」を身に付けることが目的となっています。つまり、知識を身に付けることでもなく、課題を解決することそのものでもありません。調べ方やまとめ方の「学び方」や「ものの考え方」「主体的な態度」「創造的な態度」を伸ばすことが求められています。

大利中では、年間50~70時間で計画・実施しています。特に、工夫点としては、体験活動を取り入れて、その充実を図っているところです。一口に「体験」と言っても数多くあります。感動体験、共感体験、達成体験、成就体験、自立体験、共生体験、成功体験、失敗体験などです。このような体験を通して、「生きる力」を身に付けてくれることを期待しています。そして、この総合的な学習の時間で身に付けた問題解決力は、各学年の行事へとつながります。1年生は、自然教室、2年生は、修学旅行、3年生は、職業体験です。それぞれ、心身鍛練教育(1年生)、歴史・文化・自然教育(2年生)、キャリア教育(3年生)といった質の高い教育へとレベルアップしていきます。

進路説明会(3年生)

6月12日(金)、3年生の生徒と保護者の皆様を対象として、進路についての学習会を実施しました。中学校からの説明とともに、高校の先生にも来ていただき、「高校が望む生徒とは」という内容で話をさせていただきました。軽快な語りとユーモアのある内容に生徒も保護者も熱心に聞き入っていました。

年に一度の道徳の授業

6月2日(火)の1時間目、私、校長(新莊)は、年に一度の道徳の授業を1年3組で行いました。何せ、年に一度の授業ですから、なかなかうまくいきません。しかし、生徒は立派です。私の発問に、積極的に発表してくれました。本当にありがとう。当日の「めあて」は、「こんなに多くの命をいただいているのだろうか」ということで、その「ねらい」は、「身近な動植物をはじめ、命あるものはお互いに支え合って生き、生かされていることに感謝できる」ということでした。授業は、学級で飼っていたにわとりを食べるか、食べないか、つまり、命をいただくことについて葛藤させる場面をつくりました。生徒の考えは揺れました。「大切に育ててきたから食べない」「大切に育ててきたからこそ食べる」生徒諸君は、命はずっとつながっているということを、本当に真剣に考えてくれました。



「1年3組の昼食の様子です。元気いっぱいです。命が輝いています。」

6月・7月の行事

- 6月28日(日) 中体連大会(野球)
- 7月1日(水) 大利の日
- 7月2日(木) 授業参観、修学旅行説明会(2年生)
自然教室説明会(1年生)
- 7月4日(土) 5日(日) 中体連大会

*「コミュニティ・スクール大利中」は、毎月1日と15日を「大利の日」と名付けて、地域の方、PTA、大利小、下大利小の協力のもと、朝の登校時間に挨拶運動をしています。